ISSN 1883-3748

環境教育研究マネジメントセンター

News Letter

第14号 2012.3.25

長崎大学環境科学部
URL: http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/
Tel&Fax:095-819-2720

■「中山間地自然農業体験プログラム」全課程終了

学生たちの餅つきのようす

最終回となる第4回目は、12月18日に学生と教員あわせて15名が参加し、収穫祭として餅つき体験と、1年間の総括として意見交換会をおこないました。

第3回目(10月16日)に収穫した棚田のもち米60kgを使い、次々に出来上がるつきたての餅は美味のひと言に尽きます。その後、地域の方との意見交換の場では、環境科学部の公認サークル「っじゃすみん」による畑づくりプロジェクトの具体化などの話題で盛り上がりました。

2009～2010年度は、同様の活動を「地域力再生プロジェクト」と称して、田植えや稲刈りの会場を雲仙市小浜町の橘湾に近い緩傾斜の棚田でしたが、今年度は、地域住民の方々と協議し、中山間地の直面している課題や固有にみられる魅力をよりリアルに学生たちに知ってほしいという趣旨から、金浜川の上流部に位置する小田山地区の棚田へと主会場を移しました。とくに、第2～4回は参加者が15～25名を数え、フィールドで学ぶ機会として、通常の講義では得にくい、自然環境や地域の方々と直に触れられることに参加の大きな動機である点がうかがえました。

さらに、次年度以降の展開について、地元と協議を密にしながら内容の精選に努め、さらにこのような活動をインターンシップのような形で単位認定できないか、センターとして検討を重ねていく予定です。

また、学外協力者として、宮原和明先生(長崎総合科学大学名誉教授、NPO法人環境カウンセラー協会長崎理事長)にご参加いただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。

小田山地区の住民有志の団体「山彦の会」が作成した小田山地区の案内マップ

■「中山間地自然農業体験プログラム」全課程終了 ・・・1
■シンポジウム
「ジオパークにおける低炭素まちづくりと地域再生Ⅱ」開催 ・・2
■随想 ー4年間を振り返ってー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
■書架『NPO・NGO事典～市民社会の最新情報とキーワード～』・・3
■連載 環境科学部ゼミめぐり⑦ 深見ゼミ ・・・・・・・4
長崎まちエコ探検⑪ 小浜の炭酸泉 ・・・・・・・・・4

■シンポジウム
「ジオパークにおける低炭素まちづくりと地域再生Ⅱ」開催

名大の丸山先生による基調講演

パネルディスカッション

3 月 14 日、小浜公会堂(雲仙市小浜町)を会場に約 100 名の参加者を迎えて開催しました。2011 年度の学部長裁量経費「島原半島における地熱資源を活用した低炭素社会(スマートコミュニティ)の構築とジオ・ツーリズムの確立に関する研究」(代表：馬越孝道准教授、本センター運営委員)の一環として、本センターは昨年度に続き協力団体として運営に携わりました。

シンポジウムの開催案内ポスター

雲仙市小浜温泉は、高い源泉温度と豊富な湧出量を誇る、全国有数の温泉地帯です。低炭素社会への移行が求められるなか、ここ小浜温泉では、未利用温泉水をエネルギーとして活用する取り組みへの挑戦が始まっています。100℃程度の熱水を利用した低コスト・高効率の発電システムは、世界的にも注目を集めている技術と評価されており、先駆的なこの取り組みを進めることで、エネルギー自給、地域経済・観光の活性化など、さまざまな波及効果が期待されています。

シンポジウムの開催にあたり、この取り組みの中心となって進めている小野隆弘教授による趣旨説明がなされ、続いて基調講演を「地域密着型自然エネルギー事業の可能性と課題」と題して、名古屋大学大学院環境学研究科准教授の丸山康司先生に風力発電をふくめた再生可能エネルギーの取り組みについて、地域コミュニティの理解や協力の積み重ねが大切であることを分かりやすくお話しいただきました。

パネルディスカッションは、「温泉発電始動から立ち上がる小浜の未来」をテーマに、地熱技術開発株式会社取締役の大里和己氏、株式会社エディット代表取締役社長の藤野敏雄氏、小浜温泉エネルギー活用推進協議会会長の本多宣章氏、本センター副センター長の深見聡准教授がそれぞれの立場から雲仙市小浜温泉で 10 月から始まる未利用温泉水による発電実証実験の意義や、2009 年に日本初の世界ジオパークに認定された島原半島ジオパークの仕組みを活かした地域づくりなど、熱い議論が交わされました。

当日の模様は、読売新聞と長崎新聞でも報じられ、循環型社会の形成のモデルとして、本センターは環境科学部の地域連携の窓口として機能の強化を図りたいと考えています。

■随想―4 年間を振り返って―

長崎にきて、早いものでもう4年。そして長崎大学を卒業することになった。親元から離れて異郷の地で生活してきたわけだが、思い出は数えきれないほどあり充実した大学生活だった。こんなに自由で、のびのびとできて、悩んで、成長した時間はなかったと思う。

大学は人をダメにする。そんな言葉を耳にしたことがある。高校までと比べて勉強時間が減り、頭が悪くなるぞ。自分に対するブレーキがきかなくなり、羽目を外して失敗するぞ。そんなところだろう。なるほどと納得したのはこの4年間一度や二度ではなかった。

学生の本業は学問。その言葉通りに勉強一辺倒できた、とは言えない。自分で取捨選択する授業だが、出席したくない日もあり、うとうとしてしまう科目もあり。試験期間は友人と必死に出題されそうな場所を予想しあい、終わった後はカフェになだれ込んだ。問題の意味不明さに文句を言い合ったり長期休暇の予定を決めたり、何時間も談笑したりした。

日常生活では初めて働くということをアルバイトで経験して、お金を稼ぐことの何たるかを実感した。そのお金でプライベートを満喫した。趣味は旅行なので、貯金しても一気に消えていく。お金の使い甲斐というものを知った。これまた貯金が大量に消費される飲み会では夜遅くまで騒ぐこともあった。アパートの隣人やお店の隣の客に迷惑をかけていたかもしれない。それでも隣の他人に、自分が今楽しい時を過ごしていることを自慢したいと思っていた。

長崎大学に来たのは、環境問題を学びたかったからだ。何をどうすれば、問題は解決できるのか、それが知りたかった。結果、それはわからなかった。何をどうすれば解決するかなど、わかる問題ではないことがわかった。政治や経済、地域の事情が複雑に絡み合い、これさえクリアすれば環境はよくなる、という簡単な答えは存在しないことが理解できた。これは環境問題にだけ当てはまるものではない。社会に出たら答えのある問題の方が少ないという。自分はこれからも、はっきりした答えの出ない問題と向き合っていくのだろう。高校までの人生では体験できなかった自由と責任、社会人になれば否応なしに直面する現実の厳しさの片鱗を、大学で学べたと感じている。

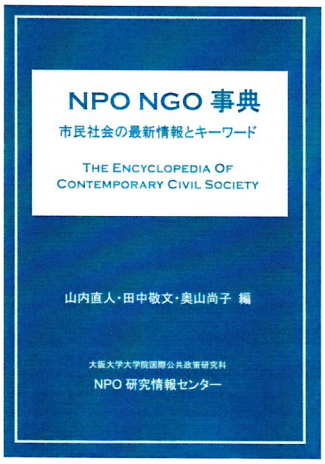
今年の環境科学部卒業証書授与式のようす

大学は人をダメにする。在学中何度も納得した言葉だ。しかし振り返ってみれば、その限りではないことに気付いた。　(4年 香川菜美)

■書　架

『NPO・NGO事典～市民社会の最新情報とキーワード～』

(山内直人・田中敬文・奥山直子編、大阪大学大学院国際公共政策研究科 NPO 研究情報センター刊、2012 年、¥3,000＋税)

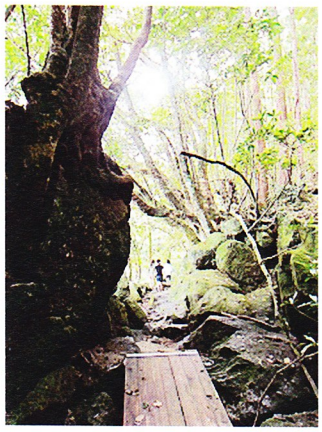


寄付とボランティア、まちづくり・災害・環境など非営利組織をめぐる 78 のトピックを 2 ページずつで紹介する第Ⅰ部と、600 余りのキーワードを簡潔に説明した第Ⅱ部とで構成されている。タイトルに事典とあるが、身近に見聞きするようになってきた NPO・NGO の現状や研究動向を手広くまとめた国内初の本格的な読み物として多くの方に手に取っていただきたい。

今年 4 月から NPO 法が改正され、さらに市民活動の伸長が制度的にも図られることになる。本書は、NPO・NGO への関心を高める一助となる最新の一冊である。　(深見聡)

■連　載

―学生リレー企画―環境科学部ゼミめぐり ⑦〈深見ゼミ〉



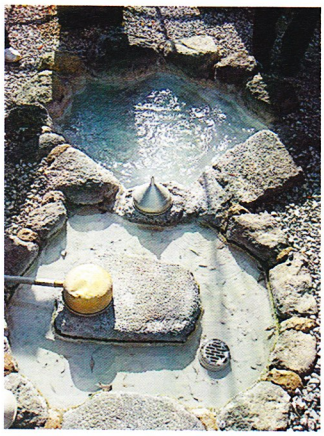
深見ゼミは、今春初めての卒業生を送り出しました。4 月からは、大学院生 6 名、4 年生 8 名、3 年生 6 名の大所帯になります。深見先生は、NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会を設立してまちづくりの現場を経験したり、鹿児島国際大学の客員研究員を経たりして 2008 年に長崎大学へ赴任しました。5 月に開催される「第 5 回ジオパーク国際ユネスコ会議」の実行委員を務めるなど、最近ではジオパークや世界遺産をテーマに、自然環境資源の適正利用に人文地理学や地域教育論の視点からの研究をされています。また、防災教育や地域コミュニティ再生、ボランティアなどについても学ぶことができます。

1 期生 6 名の先輩たちは、知床・北アルプス・屋久島・水俣・対馬・長崎市内を対象に、フィールドワークを重ねた卒論を書きましたが、地域密着のテーマはもちろん、先生が詳しい韓国を扱うことも可能です。ゼミでは、前期に 1 回、地域事情研修として巡検に出かけています。これまで、平戸・広島・大分に足をのばしました。

興味をもった方は、気軽にゼミ室を訪ねてきてください。　(3 年 谷口美里)

長崎まちエコ探検⑪　小浜の炭酸泉

街なかを歩いていると、何気ない景観に意外な歴史や人びとの思いが詰まっているのを知ることがある。本コーナーでは、そのような長崎の隠れた自然・歴史・文化などのさまざまなスポットをご紹介する。



九州には温泉が各地にあり、長崎もその例にもれません。島原半島にある雲仙温泉や小浜温泉は、とくに歴史ある景勝地としても知られます。

今回取り上げたのは、小浜温泉街の一角にある炭酸泉。小浜温泉は高温で有名ですが、ここは 25℃と低温の炭酸ガスと硫化水素を含む泉です。つねにボコボコと地表に湧出する音がしています。

昭和初期までは、入浴用のほか、外国人保養地として知られた雲仙を訪れる観光客にサイダーとして飲まれていました。現在、復刻版の商品も開発されるなど、炭酸泉の歴史はいまも形を変えて地域に生きています。

(取材=M1 年 王 佳宇)

□■編集後記■□

第 14 号をお届けします。／2007 年 7 月に環境教育研究マネジメントセンターが設置され、間もなく 5 周年を迎えようとしています。私は 2008 年 10 月に着任して以来、センター業務を担ってきましたが、このわずかな期間であっても環境問題を取り巻く“環境”の変化を如実に感じてきました。／5 月にはいよいよジオパーク国際会議、センターからも複数の学術発表をおこなう予定です。／ニューズレター第 15 号は、6 月 25 日付で発行予定です。新年度も紙面充実に努めてまいります。　(深見)

環境教育研究マネジメントセンター *News Letter*　(第 14 号)
2012 年 3 月 25 日発行
長崎大学環境科学部環境教育研究マネジメントセンター
〒852-8521 長崎市文教町 1-14
URL http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/
Tel&Fax 095-819-2720(深見聡研究室気付)
E-mail fukami@nagasaki-u.ac.jp
(編集長：深見 聡)
印刷：H.P.第一